常磐公園　植栽計画市民ワークショップ（現地視察）　会議録

日時　　：　平成 26 年 10 月 19 日（日）13:30～15:00
会場　　：　旭川市常磐公園内
出席者　　：　地域住民　12 名
　　専門家　　2 名（オブザーバー）
　　事務局　　5 名（旭川市公園みどり課 2 名、（株）建設技術研究所 3 名）
配付資料　　：　現地視察資料

○会議録

常磐館横に現地集合し、開会・挨拶後、築堤緩傾斜化部まで移動。当該箇所をみながら緩傾斜の形状や経緯、当該箇所にある樹木の特徴や移植する樹木、保全する樹木とその方法などについて説明した。その際、オブザーバーより常磐公園の生態系について補足説明や植栽計画を討議するにあたり、「自然環境からみた常磐公園（動物の利用への配慮）」等の視点の重要性などの説明をいただいた。

その後、当該箇所を一周して質疑応答を行った（次ページ参照）。

緩傾斜化部の視察を終えた後、千鳥ヶ池の周囲を視察し危険木やトビ営巣木の視察、オブザーバーよりコウモリのねぐら（ドロノキ）について解説をいただいて現地視察を終了した。

20141019

市民ワークショップ　現地見学会意見・質問等

（参加者からの意見・質問等）

・緩傾斜科は堤防の強化に繋がるのですか？また，この区間だけ整備して強化になるのですか？。

→堤防幅を拡げることにより必要断面を確保し，堤防必要幅以上の緩傾斜化部分は植栽や利用にする計画となっています。堤防の改善が必要な区間はすべて整備が必要になりますが，すべてを同時に整備はできないので，整備できる環境が整った箇所か整備をすすめていかなくてはならない。

・移植木はどこに運ばれるのですか？

→神楽岡公園にある旭川市所有の圃場で育成養生します。

・保全木の覆土について，樹種により影響が異なる可能性があります。覆土厚 2mの実績があるそうですが，1m程度が限界ではないですか？

→影響がないとは言い切れません。ただし，傾斜部であり，全ての保全木が 2mの覆土をするということではありません。

・堤防を盛土する土はどこから持ってくるのですか？持ってきた土に外来種が混じって生態系が変わってしまうようなことはないのですか？

→市内の工事現場から発生した土を持ってくることになります。土の検査は行わないので，持ってきた土に特定外来生物が成育している可能性がないとは言えません。

・現在の検討範囲内の空き地に生育している実生を，そのまま残して育成してみてはどうでしょうか。

→盛土の範囲内についてはそのまま残すことは難しいですが，手法として実生を圃場等に移して育成していくことも考えられます。ただし，実生からの育成は時間や費用など課題が多いです。

（有識者からの意見・質問等）

・一部の樹木は保全，移植するとのことだが，どのように区分しているのですか。

→樹木の位置や大きさ，移植の可否等の条件から区分しています。

・河川側の整備に関して，芝生以外にも他の植生を植えることができると良くなります。

・堤防等建設後のモニタリングが重要と考えています。

・高木を切ることによる風の吹き込みの影響も考慮した方が良い。

→植物などは在来種であれば，生育には大きな支障はないと思われます。

・ドロノキは比較的寿命が短いため，それを考慮した管理が必要です。

・ヤマコウモリのねぐらが確認されているが、人が干渉しなければ、常磐公園のような都市公園でも継続して利用しています。